



昔話法廷『三匹のこぶた裁判』を振り返って・・・<みんなの感想より>

- なかなか意見がまとまらなくて、だからといって強引に決めることもよくないと思うし、「フェア」は大変だと思った。だから、改めて人と意見がぶつかったら長所と短所をちゃんと伝えてお互いの意見を尊重しあうことが大切だと感じた。(1組女子)
- 僕は、ほとんど無罪が出ると思ったけれど、有罪の意見も多かったので、それぞれ人によって考えることが違うことが改めて分かった。両方にフェアな気持ちで考えられたと思う。(1組男子)
- しっとかり考えることができた。班によって意見がバラバラすごいなと思った。「絶対無罪やろ!」と思っていたけど、別の意見をもつ人もいておもしろいなと感じた。(2組女子)
- みんなのいろいろな意見をきいたりしておもしろかった。社会人になって裁判員になることがあれば、フェアな判断を出すことができればいいなと思った。(2組男子)
- どんな裁判でも、判決を下す側は常に公正(フェア)にみることが大切だと感じた。広い心をもって生きていきたいと思ったし、これからに活かしていきたい。(3組女子)
- いつもとは一風変わった道徳だった。今回はシミュレーションだったけれど、将来もし、裁判員に選ばれたら、今回のように真剣に審議しようと思った。(3組男子)
- 人の人生はささいなことで、変わってしまうんだなあと思った。1つの判断は重要だし、裁判とはいわなくても、話し合いとかもめごとでも、人に押し付けるようなことはせずに、十分に話し合ってから決めようと思った。(4組女子)
- どちらの意見が正しいのかはっきりわからないときの場合、自分の判断で人の人生を左右するとなると、とても責任が重く、もし自分が(裁判員に)なったとしたら、ちゃんとできるのかとても不安な気持ちになると思った。(4組男子)
- とても考えさせられた。どちらにもそれぞれの証拠や理由があり、とても決め難いものだと思った。被告人の言っていることが本当か嘘かも分からないので、傍聴するたちはその人たちの心の中を汲み取ることが大切なんだと思った。今回はこぶただったので柔軟に考えることが出来たけれど、これが人間のことになると、さらに考えることも増えてくるだろうし、フェアな気持ちを持つことが大切だと思った。それらを日々の中で身に付けていきたい。(5組女子)
- 同じ裁判を見ても、人それぞれでとらえ方は違うし、同じ判決であったとしても理由は違うから、裁判はある意味おもしろいなと思いました。(5組男子)
- 三匹のこぶたを初めて見たとき、こぶたたちの行動に何も不思議なことはない。という私の気持ちが変わった。こぶたを無罪と考えたのは、確かにこぶたたちには計画的ではないかと思える行動はあったものの、証拠がなかったから。もし、身近なところでケンカなどが起こったときには、誰が悪い、と決めつけるのではなく、客観的に見て誰が悪いのかを考えられるようになりたい。また、自分だけでなく相手の立場にもなって考えて行動していきたい。(6組女子)
- 裁判の判決を下すのは、被告人・検察官のどちらの意見を取り入れなければならないので、とても大変で、難しいことだと感じた。どちらも判決を大きく左右する証言があり、意見が割れたときにはどうやって判決を下しているのかが気になった。(6組男子)

昔話「三匹のこぶた」のその後、を題材にした、ちょっと不思議な裁判。被告人である「こぶたのトン三郎」の裁判を見守る裁判員として、その判決を考えました。対立するふたつの主張。ひとの人生がかけた決断をくだす重み。「フェアである」とことのむずかしさ。小法廷(グリーフ)で議論しながら、とっても真剣に考えてくださいました。すべての問題に、あらかじめ答えが用意されている訳ではないけれど。それでも、決めねば。信じて前に、進まねば。感想を読んでいると、この題材にたくさんのことを感じてくれたのが分かります。こうして考えたこと、仲間と意見を交わしたことが、この先どこかで活かされることを願っています。